

冠婚葬祭総合情報誌

# 全日本ニュース

発行/株式会社フォトサービス  
TEL. 03-5980-0290

※本誌に掲載している情報は、一部インターネットなどに掲載されている文献をもとに編集しておりますので、地域・風習等により異なる場合がございます。



行人岳山頂



道の駅黒之瀬戸



行人岳参道入口



名物のブリがおいしい定食



## あなたのふるさと紹介

鹿児島県 出水郡長島町

伊唐大橋を望む

現在は滋賀県にお住まいの内山様から、ふるさと鹿児島出水郡長島町のご紹介のお便りを頂きました。

子供と孫の傍で、静かに余生を過ごすべく、終の住み処を四十五年定住している当地(滋賀県)に決めても、複雑な心境です。幼少の頃は都会に憧れていたのに、歳を重ねるごとに心は生誕の地への思慕が増すばかりです。

今日は体は遠くに離れていても常に心が赴く、十五歳まで過ごした郷里を案内します。両親没後、帰郷も遠のき追憶も斑なので、長島町のホームページの手助けを頼りに、私が皆様を引率します。

出水のツル渡来地を脇目に、急流の黒潮に昭和四十九年架橋された黒の瀬戸大橋を渡り終えると、平成の大合併で誕生した私の郷里長島町です。面積一六・二五平方キロメートル、総人口二万二千人、車で二周三・五時間です。

眺望を充分堪能されたら一旦下山し、車で東に二十分ほど走ると針尾公園。展望台からの風景は目を疑うほど。伊勢志摩に類似しているのが驚くことでしょう。また、学校所有の無人島「ひょうたん島」はいろいろなイベントで青少年の心身育成に活用されているそうです。

まずは郷里を認識していただくために、高地で山岳信仰の聖地、行人岳へ登頂する。頂きからは、四つの有人島と大小十八の無人島で構成された景観を大方覗けます。快晴の日には雲仙普賢岳まで見渡せるそうです。

温暖な気候に青く映える海原の海岸線と、緑反り立つ山々が、優しく、そして爽やかに迎え入れてくれます。

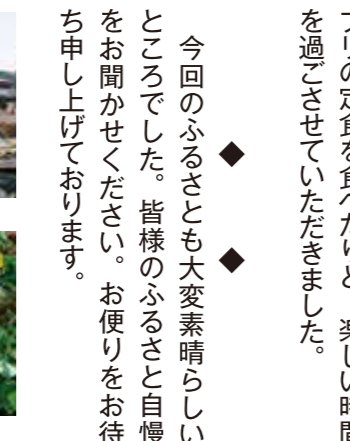
四年前先祖の墓参りに、中一と小一の孫を伴い帰郷した時、中の孫娘はコンビニエンスストアもないなんて考えられへんとボヤかれました。小一の孫娘は、アラカブ(カサゴ)の入れ喰いに気を良くしたのか、また来ようねと満悦でした。地域への感受性は年代によって差異がありそうですね。



長島町文化ホール



フェリー乗り場



さつま芋名産品です

あなたのふるさとを皆様にご紹介してみませんか？

皆様の故郷や第二の故郷の、おいしい食べ物・素敵な場所・歴史などをお聞かせください。ちょっとした些細な事でもあなたの思い出深い事なら大歓迎です。

今回のふるさと大変素晴らしいところでした。皆様のふるさと自慢をお聞かせください。お便りをお待ち申し上げております。

応募先 〒170-0004 東京都豊島区北大塚 2-3-15 B1 株式会社フォトサービス 全日本ニュース係宛

## こねぬきポンポコの これなんだポコ?

「バナナアイスは オイチイポコ!」の巻 作/つきのしずく 絵/恋林あやこ



①バナナの皮をむき、わりばしをゆっくりとさします。

②バナナにレモン汁をはけでぬります。

③ラップでくるんで冷凍庫でこおらせたらできあがり。

みんなで作れば お店気分!!

## 中国茶あれやこれや 第五回

中国茶に詳しい青蛾茶房主人が語る、お茶にまつわるお話あれこれ...

お話し/青蛾茶房主人 ●プロフィール 中国高級評茶師 静岡生まれ 100年続く茶農家の親戚を持つ 中国福建省で無肥料・完全無農薬の中国茶を生産中。

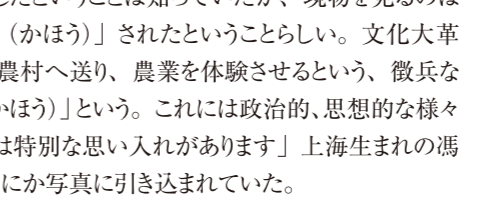
### 樹に会いに行く①

自宅にあった中国茶に関する本の冒頭に、雲南省にある古い茶樹の記述が載っていた。樹齢800年を越えていたのが数年前に枯死したということだった。写真が載っていて、大人が二人で茶の樹を抱えている。その大きさは衝撃的だった。それから少しして中国人カメラマンの馮さんに会うことがあり、雲南省には凄いところがあるんですねと軽い口調で話すと、一冊の写真集を持ってきてくれた。それは馮さんが撮影した「雲南」という写真集だった。



枯れてしまった古茶樹。雲南省の南橋山 樹齢800年です。いまはもうありません。

この写真集が日本の「太陽賞」を受賞したということは知っていたが、現物を見るのは初めてだった。若い頃に雲南省に「下放(かほう)」されたということらしい。文化大革命期の中国では都市部の青少年を地方の農村へ送り、農業を体験させるという、徴兵ならぬ徴農が行われていた。これを「下放(かほう)」という。これには政治的、思想的な様々な思惑もあったようだ。「だから私は雲南には特別な思い入れがあります」上海生まれの馮さんが若い頃過ごした雲南。私はいつの間にか写真に引き込まれていた。



雲南の地図

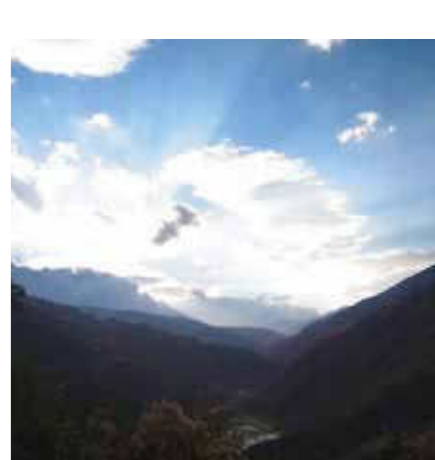


額に入っている茶葉。相当大きいです。

数日前に読んで古い茶の樹の話をすると、写真集の中の写真を指し、「この樹も数百年ですよ」と説明してくれた。軽い気持ち、ほんの軽い気持ちで「行ってみたいです」と言うと、現地の人の名前と電話番号を書いたメモをくれた。ここに行くにはガイドが必要で、よく道を知った運転手でなくては絶対に行けないと念を押された。私は数年前から中国語を勉強しているも片言ぐらしか話せない。その



お話し/青蛾茶房主人



雲南の空

日の夜に人形町にある中国語学校に行き、先生に話をした。今までに行った事の無い場所なので中国人に聞けば少しは知っているかと思ったが「日本でも沖縄に住んでいる人に埼玉県の地名を聞くのと同じで、知らない場所です」と言われてしまった。なるほど良い例えである。現地で必ず話す事例を書き出して翻訳をお願いした。北京語のピンイン(発音記号)を振ってもらって練習する。

週末に神保町の中国関連書籍専門の書店で、中国国内路線の運行表と地図を購入する。この日は暑い日で、本を小脇に抱えて近くのレストランでビールを頼む。見慣れない地名とまだ何処にあるのか解らない茶の樹を思いつつ手元のグラスからはビールが消えていった。ほろ酔い気分が家路についた。見上げると真っ青な空に白い飛行機雲が流れていて、あの空は雲南に通じているんだなどと勝手なことを考えていた。中央線は相変わらず混んでいて、ドア前で座りこんでペットボトルのドリンクを飲んでいる高校生がやたら響いてくる。いつの間にか眠ってしまった。(続く)

青蛾茶房  
http://www.seigasabou.com  
email: lingmu0@gmail.com